

経営管理 マハラペ ボツワナ鉄道 平成25年度1次隊 丹野敏行

・自己紹介

私は2013年7月から2年間の予定でボツワナ・マハラペのボツワナ鉄道に派遣されました。ここでは経営管理という職種で主として改善活動を行っています。

・ボツワナという国

ボツワナは日本の1.5倍の面積に日本の約60分の1の人が住んでいます。埋蔵量世界1のダイヤモンドに恵まれ、国民一人あたりの総所得は南アフリカを超えており、アフリカの中ではインフラも整備され急速に発展してきました。一方で成人のHIV感染率は世界のトップクラスであり、国の主要な課題でもあります。国全体が1000mの平坦な高地にあり気候は昼夜の差が大きく、冬の早朝には氷点下となることもありますが、日本より暮らしやすい気候だと思います。

・ボツワナ気質

この国には「戦争の最高形態は対話である（ウトワ コロ ケヤ モロモ : ntwā kgolo ke molomo）」という諺があります。この諺からわかるように、ボツワナの人々は争いごとを好まず、穏やかで温和な性格です。また、細かいことを気にせず、何事もおおらかに受け入れます。生きることにあくせくせず生きることを楽しんでいるように見えます。また、食事はいつもと同じものを食べ、変わったものには慎重です。仕事も同じく変化より安定を求めているように思えます。

・マハラペについて



ボツワナ鉄道の本社があるマハラペはボツワナの首都・ハボローネから北へ200kmの所にある砂地とブッシュに囲まれた町です。人口は約45,000人で、ボツワナでは10番目の町です。首都ハボローネとボツワナ第2の都市・フランシスタウンを結ぶA1道路のほぼ中央に位置しており交通の便はととてもいいです。この名物はマハラペの大木と呼ばれる大きなバオバブの木ととても固いが美味しいマハラペチキンです。



・活動内容

－ ボツワナ鉄道



ボツワナ鉄道は1987年にボツワナ政府がジンバブエ国鉄から買い取ってスタートしました。2015年現在、総営業キロは約880km、従業員約700名の半官半民の会社です。老朽化した車両のメンテナンス費用が最大の原因と言われてますが慢性化した赤字経営が続いています。2009年には旅客サービスから撤退し、2013年からリストラも実施してきました。JICAへ対する要請の最終的な狙いはこの赤字解消にあります。



－ 仕事内容

会社はボツワナの官公庁と同じく、7:30から16:30が就業時間です。昼休みは12:45から13:30です。日本に比べると午前中が5時間、午後3時間で午前中が長く感じられます。私の仕事は改善の手法を使って会社の業務効率・品質を上げて、最終的にこの赤字解消に寄与することです。

2013年8月に赴任した時に社内でインタビューを実施し、抱えている課題の中からチームで取り組むテーマを選定して実施しています。

ここで仕事を進めるにはとても時間がかかります。慎重なのではなく、時間に対する意識が日本と一桁違う気がしています。ただし、ミーティングの場では十分議論せずにいろいろなことがたちまち決まってしまう。その後の実施になるとまたまた時間がかかっていつできるのかわからない、という状態に戻ります。しかし、上位の役職になるほど、時間も約束を守って仕事をします。だから上位の職に就いているのだともいえます。私はこういう環境の中で、関係者を集めてミーティングをして、問題の分析から対策の立案、実施をチームでやって行くのですが、とにかくミーティングを開催するのが大変です。事前に連絡するのですが、その時にならないと来るかどうかかわからない、ということがたびたびです。しかし一度ミーティングが開催されると、仕事以外の話も含めてとても活発な意見が出されます。ミーティングが午前中なら10時頃、午後なら3時頃からミーティングはティータイムとなりさらにいろんな話題に花が咲きます。このように、なかなか進まない、といっても1年も続けているとそれなりに進捗はしてきます。焦らず・諦めずに付き合うことが重要です。

- 余暇の過ごし方

就業時間は4時半までです。日本でいう中間管理職や上位の役職者は遅くまで残業をすることもあります。恒常的ではありません。私は5時頃会社を出て、最近は健康のため、片道1時間ほどかけて歩いて帰ってます。日没以降は外を歩くのは危険なので、日没に家に着くようにしています。ここ、マハラペには外にレストランなどほとんどありません。したがって、自炊するしかなく、しかも時間がたっぷりあるので、少ない種類の食材を手間をかけ工夫して作ります。こちらに来ると多くの人は料理の腕が間違いなく上がります。週末は同僚を呼んで寿司パーティーをやったり、バスで2時間半かけて首都のハボロネに出たりしています。この寿司パーティーは、最初は日本食を紹介しながら、いろいろボツワナの話の聞きかたとして始めました。みんなは当初、儀礼的に来てくれていて、それほど沢山食べませんでした。しかし、最近は、また食べたいとリピーターになった人や、スペシャルライス、と言ってリクエストしてくれる子供たちもできました。食べ物に保守的なボツワナの人たちに寿司も受け入れられたようです。



まとめて休みが取れると旅行に行ったりしてリフレッシュしています。やはりボツワナといえば野生の動物が見られるサファリ。国内にはいくつものサファリのための自然保護区や国立公園があり、象、キリン、カバ、サイ、バッファロー、ライオン、レパード、チータなどなどを見ることができます。広いサバンナで会う動物には、動物園では得られない興奮と感動があります。

・最後に

ボツワナの人は良く言えば細かいことにこだわらない。悪く言えば困ってもあきらめがよい、というところがあります。日本では仕事でも掃除でも、細かいところまできちんことを大事にします。ボツワナではそれにかかる苦労や労力を避けるためか、一言「ハホナマタータ(Ga go nna mathata)」(問題ない)、で片づけてしまうことがあります。このおおらかさに彼らの生きる知恵を感じます。私も物事の軽重を考えて時にはわすれ、ゆったりと生きることを楽しむすべを学びたいと思います。

平成25年度1次隊 丹野敏行